

# 『一心千里』

永田 隆一



第132回

走って見れば、  
見えてくる

9月に入っても、コロナの感染状況は終息の気配を感じることができません。このまま秋冬へ季節が移ると、ウィルスの影響が増加するとの意見も多く、経済へのダメージはより深刻化するのであります。

コロナの抑え込みと、経済のテコ入れ。相反する課題のかじ取りは、複雑に入り組んで、時間を要しそうです。しかし、現実には厳しい状況です。京都のタクシー乗務員の月収は7万円。東京でも10万円。家賃が払えず、若手は配送業界へ転職しています。

新規工場の建設は軒並み延期、設備業界は大きく落ち込んでいます。鉄道大手18社、すべて赤字です。広告宣伝費ストップ、派遣社員の雇止めまで対応しています。

電子デバイス業界では、アジアへ装置を販売しても、現地エンジニアを有しない中堅・中小企業は、日本から立ち上げ調整のエンジニアを派遣できません。装置代金の20%の回収が半年以上遅延しています。

した政策がありました。それは「紙幣を印刷して、大量に国民に無償で支給

## コロナ禍の閉塞感の中 仲間の夢の実現を考える

する」というものでした。それが正しい政策だと考

える根拠がありました。まず、米国と中国がこの政策を推し進めているという事実。1万円札の製造コストは5円です。日本政府が5円の紙幣を1万円価値があると保証するだけあります。現在、日本銀行が金融緩和をしてマネタリーベ

イスを増やしても、国民や企業からお金を借りる需要がありません。結局、日銀は国債を500兆円弱購入、上場投資信託で株式を30兆円購入しています。

当時、民主党の多くの議員が「民主党が政権を取った時には、お札を大量に印刷いたします。例

えば、国民1人あたり300万円を無償支給すれば、100万円は貯金に

回して、200万円は消費するでしょう。これでデフレと円高を簡単に解決できるのです。米国も中国もすでにやっている政策であります。そう講演していました。今こそ日本政府はお札印刷をやるべき時、と筆

者は考えます。ちなみに、民主党は政権を取りましたが、米国から身も凍るプラフ(脅し)を受けて、紙幣印刷政策を放棄、その詳細は極秘事項です。

「雄介くん、最近の仕事の調子はどうだい」「亮太さん、1年前に配

置転換がありまして、とても攻撃的な人たちとの仕事が増えています」

「人間は、心の余裕がなかったり、自分の能力の限界を感じていたりすると、他人へ辛く当たる人がいる。世の常なんだよね」「そうですね。しかし、なぜそういう態度をとるのかを冷静に分析をして、そういう人たち

ともうまくやっていく方法を考えたりすること、とても良い勉強になると考えています」「えらいぞ、経験に勝る学習はないという」。

「亮太さん、最近感動したことがあります。小劇場の役者さんなのですが、ずっと、芝居に対する夢を語っていた人です、夢の大きさを、どう

おじさんが夢を語るのとは

カッコ悪いと、夢を諦めて3年くらい経った時、役者仲間やファンの人たちが自分に夢を託していることに気づいたということです」「それは、ちょっと素敵な話だね」「そうですね。そして、周りの人たちから託された夢を実現するために、全く新しい気持ちで努力を

始めたのです。頑張ってください」。人間、自ら挑戦する人は、それだけで素晴らしいと思う。そして、困難に挑戦する人を、色んなかたちで支える人たちも、同じくらいに素敵だと思つ。自分の夢を諦めたとき、周りの人たちが自分に夢を託していることに気づく。小説になるね。舞台にもなる」「夜明けの来ない夜はない。その人はよく言っていました」。

人類は、疫病との戦いを何度も生き抜いてきたという歴史があります。夜明けは間違いなく来るのでしよう。そして、自分の夢の実現ではなく、周りの人たちの夢の実現を助けることに光を当てることがあります。

（毎月連載）